

# 安全・安心まちづくりNews 第121号

## 被害には前兆がある!?



子供の身に起こる「あぶない」はさまざまで、「ちょっとどきとした」「ひやとした、こわかった」など多くの子供たちが体験しています。そのなかには「じっとみられた」「つきまとわれた」など事件につながるものもあります。

子供の声にしっかりと耳を傾けてください。「あそこで怖い思いをしたよ」「公園に変な人がいたよ」という声は重大事件を未然に防ぐ端緒です。

その情報を地域・学校・警察と共有し、子供を取り巻く環境を安全なものに変えていきましょう。



楽しいこともつらいことも何でも話してね。



「あぶない」と感じたとき、大人でさえ「大きな声でたすけて」ということも、「走って逃げる」ことも難しいものです。まして子どもはなおさらでしょう。

でもいざというときには、身を守る術を發揮しなくてははいけません。家庭において「こんなときはどうするか」を話し合い、シミュレーションしてみましょう。実際に大人が不審者役になり子供がきちんとできるかどうかやってみるのもいいでしょう。できること・できないことがみつきり、こんなふうにするのがいいんだよと一緒に考えましょう。

香川県警察安全・安心まちづくり教育隊の安全教室ではロールプレイングを取り入れて実際に子供たちに「不審者に出会ったときどうするか」を体験してもらいます。

